

関西の景気ピックス【雇用関連（25年2月）】

- 25年2月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.6%（原数値）と、前年比で0.5ポイントの低下となった。前年比での低下は3か月連続。変化の内訳は、就業者数が前年比で16万人の増加となり、失業者は5万人の減少、非労働力人口も14万人の減少となっている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、25年2月は1.14倍（季節調整値）と前月比で0.02ポイントの低下となった。24年中旬以降、緩やかな上昇傾向が続いていたが、ひとまず上昇の動きが小休止する形となっている。
- 東京、大阪、愛知の有効求人倍率を比べると、東京の水準が圧倒的に高いほか、近年のトレンドも、東京がほぼ横ばいで推移しているのに対し、大阪、愛知はやや低下傾向にあるなど、大きな違いがみられる。
- ただし、求人を就業地ベースでみると（通常は受理地ベース）、東京と大阪の有効求人倍率に大きな差はない。水準、トレンドともにほぼ同じ推移となっており、東京の水準も直近は1.1倍にとどまる。

